

1 + 1 が 3 になる 協働

コラボレーション

..... collaboration

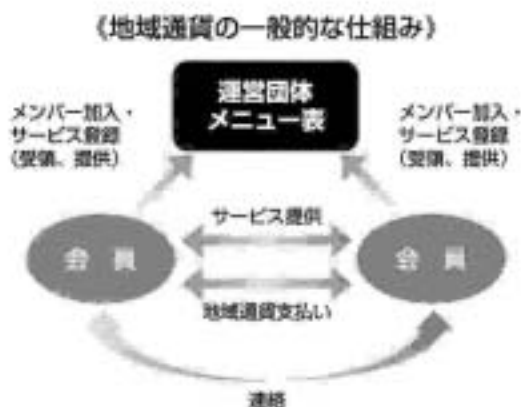
第9号 2003 6

地域通貨がコミュニティを紡ぎ、活性化する

～ ひょうご地域通貨フォーラム開催 ～



県内のおもろな地域通貨



地域通貨は、一定の限られた地域で発行され、地域コミュニティにおける人と人との信頼に基づいて流通する通貨であり、様々な地域課題の解決や地域コミュニティの再生など、地域経済の活性化を図っていく上で、注目を集めているツールです。

そこで、ひょうごボランティアプラザでは神戸商科大学との協働により、地域通貨の持つ「事業創造」の観点から、コミュニティ・ビジネスや社会的起業、マイクロビジネス等への展開にかかる研究を行うとともに、地域通貨の普及を図るため、実際に地域通貨の導入に取り組もうとするグループ・団体に助成を行う地域通貨実践支援事業を実施してきました。

そして、こうした事業の成果を発表するため、神戸商科大学及びひょうご地域通貨サミット実行委員会との共催により、3月22日(土)に神戸クリスタルタワーで、「ひょうご地域通貨フォーラム」を開催しました。

当日は、兵庫県内で地域通貨に取り組むグループや関心を持つ方々など約170名が参加し、地域通貨の可能性についての熱い議論やグループ間の交流が図られました。

Contents

- P.1-4 特集 「地域通貨がコミュニティを紡ぎ、活性化する
～ひょうご地域通貨フォーラム開催～」
- P.5 ボランティアセクターを支える「吉川町ボランティアセンター」
- P.6 プラザ通信「地域づくり活動登録について」
- P.7 NPOスクエア「NPO認証窓口Q&A、NPOキーワード」
- P.8 広がれ!ボランティア「情報発信について」 ・ 編集後記

参画と協働のキーワード(エコマナー)

地域通貨フォーラムのキーンストスピーチでは、地域通貨の国内における第一人者である加藤敏春氏により「参画と協働のキーワード地域通貨(エコマナー)」をテーマに、「コミュニティの再生」と「地域経済の活性化」に向けた、地域通貨のコンセプトや可能性が提唱されました。

エコマナーが目指すもの 協働による生活者主体の社会へ

エコマナーは、協働、共生のメッセージを発信するための地域通貨で、日本全国で二〇〇カ所以上(準備中含む)の地域で取り組まれています。二十一世紀になり、人々は利益より地域へのコミットメント、人々との共感を追求し始め、協働が生まれ、匿名ではなく顔の見える関係が求められていく時代になりました。これらに、新しいブロードバンド技術の可能



性を取り入れて使いこなせば、時空二体の場がつけられるようになるはずだ。

エコマナーは、通常の貨幣と異なり、取引継続が一定期間経過後は、リセットされて、保存はできませんが、蓄積された取引回数で、共感やコミットメントの尺度を表すことができます。また、時間を単位とするので、誰でも自由に交換できます。エコマナーは、参画と協働のため、分野を越えて人々が手をつなぐことを可能にし、協働型社会をつくり、狭い意味での福祉からコミュニティ活動全般に拡大する参加型住民主体の福祉を実現することが出来るツールです。

エコマナーの発達段階は、①相互扶助②課題発見・目標設定③協働の三つであり、第二段階では、地域の人々が分野を越えて横のつながりを形成し、コミュニティのメンバー間の「相互扶助(交流)」を促進します。第三段階では、参加することにより地域の課題を自ら考え課題解決に取り組みようになります。第三段階は、まちづくり全体の活動への協働の実行であり、公民パートナーシップによるまちづくりが実践されて、新しいコミュニティづくりへと発展していく段階です。協働の実行は、第三段階で終わりでなく、課題・

目標の変化とともに、繰り返されていくプロセスです。

「SS・バートナーズ協働」の展開

エコマナーの究極の目的は、新しいコミュニティ・パートナーシップの創造と、市民が主役になった生活者起点のまちづくりです。コミュニティの様々な課題に新しい形で答えるための手法として、私は「いい・こみゆにいい構想」を提唱しています。これは、次の四つを複合的に組み合わせたものです。第一は、エコマナー・コミュニティポイントの推進で、商店街で商品を買ってポイントを得たり使ったりできる形態でポイントを得たり使ったりできること。第二は、ブロードバンドを用いたリアルネットワークの構築。第三は、産学公連携によるコミュニティビジネスの創造。第四は、地域住民が様々な活動をする市民参加の推進です。これらの四つを「いい・こみゆにいい」「幸福の四つ葉のクローバ」と呼んでいます。これらの活動をサポートするものとして「エコマナー」とコミュニティビジネス・ネットワークがあります。

PROFILE

加藤 敏春(かとうとしはる)氏
(国際大学グローバル・コミュニケーションセンター教授)
1954年新潟県生まれ。77年東京大学法学部を卒業して、通商産業省に入省。東京大学大学院(総合文化研究科)客員教授を経て、2002年7月より国際大学グローバル・コミュニケーションセンター教授。まちづくりを個人のライフワークとし、起業、地域社会の情報化、コミュニティ形成に関与するとともに、広範な提言活動を展開。21世紀の画期的なお金である「エコマナー」の提唱者。

「エコマナー」が「いい・こみゆにいい」ビジネス・ネットワーク

「コミュニティの再生」と「地域経済の活性化」という、多くの地域が共通に抱える課題を解決するための新しい取り組みとして、四つの柱が必要になります。それは①コミュニティ形成の再生の道具として使うエコマナー②従来のスタンブカード、ポイントカードの取得・使用の類型を拡大することにより、地域のお金の循環構築を図るコミュニティポイント③地域の住民が主体となって問題を解決してビジネスをおこすコミュニティビジネス④リアルなまちづくりのためブロードバンドの活用と、新しいコミュニティ創造のためのネット上でのタウンミーティング というコミュニティネットワークの四つです。今後これら四つの柱を組み合わせ、実践することにより、個々に実践するよりも高度な達成感が得られるでしょう。

事業創造における地域通貨の可能性

神戸商科大学研究チーム

神戸商科大学研究チームの紹介

神戸商科大学では、海外諸組織と連携しながら、欧州、米国、アジアにおけるコミュニティ経済研究（社会的起業・地域通貨）を続けてきました。今回、こうした学術的蓄積や経験を踏まえ、地域経済の再編・再生に対する地域通貨の可能性を検討し、事業創造型地域通貨を提案することとしました。研究代表 加藤 恵正氏（神戸商科大学教授）



調査研究の目的

この調査研究は、地域通貨を軸に地域経済の活性化をどのように考えていくのか、あるいはそれらはリンクするものかということが焦点となつていきます。具体的には事業創造型地域通貨のあり方について考えてみようというのがねらいです。

通貨としての地域通貨

現在、地域通貨の発行が急増している背景として、市場経済外の取引が非常に重要になってきている一方、「円」は市場経済にしか対応していません。このため、地域通貨を導入することによって、市場経済外の取引を活発にしようということがあります。

つまり、経済の成熟化に伴い、「円」の限界が浮き彫りになる中で、地域通貨に対する期待が高まっていると言えます。第一に、デフレの状況のもと、「円」の持つ交換機能が相対的に低下しており、経済を活性化するのは「円」よりもむしろ地域通貨の果たす役割が大きいのではないかと。第二に、市場メカニズムに至るまで、モノや金融資産の値段が不安定になる中で、地域通貨が「円」に代わって正しい評価をしてくれるのではないかと。第三に、日本銀行が「円」という通貨を発行する際の発行益を国民が満足する形で分配していかないため、

地域通貨を発行することで住民に対して発行益を適正に分配できるのではないかと。第四に、「円」が対応できていない市場経済外の取引において、地域通貨を発行することで、地域のニーズに基づいたコミュニティビジネス等の事業の創設につながるという期待があります。

事業創造型地域通貨のデザイン

事業創造型の地域通貨のデザインを考えていく上で、大きく三つの類型があると考えられます。

第一に、コミュニティの再生のために住民のつながりを作り出すことを目的に地域通貨が導入され、個人間のやりとりから、例えば、子育てを支援するグループができ、他のグループとの関係を築き、地域を飛び越えて活動に参加する人が現れてくると、事業が成立する素地となり、地域通貨を媒介に事業化していく流れが考えられます。第二に、「信頼強化型」で、住民の間でお互いにやり取りはしているが、サービスを提供する側と需要する側との間にアンバランスがある状態で、地域通貨を導入することで、信頼関係が評価され、ここからのステップとして、ネットワークが拡大し、事業化へつながっていく。第三に、「ネットワーク拡大型」という先程の例から、サービスを

提供する側と需要する側との間にバランスが取れている状況で、地域通貨を導入し、参加者の参入障壁を下げることで、持続可能性が高まり、規模が拡大していくと事業化へつながることが考えられます。

まとめ

今回の研究事業を通して、ソーシャルキャピタルとの関係が非常に大きいことが明らかになりました。ソーシャルキャピタルとは従来、道路や橋などの生活に共通して必要なインフラストラクチャーという定義でしたが、最近では信頼とか社会的なネットワークというような非常にソフトな、またヒューマンな関係に着目して考えようという議論になっていきます。

私たちの狙いも地域通貨そのものではなく、地域経済の活性化にあり、そういう意味でソーシャルキャピタルと今回の研究の接点を考えていく必要があると考えており、その際には、地域の中における所得の循環のあり方、さらには人々の地域に対する意識あるいは通貨に対する意識を共有していくための情報循環のメカニズムが重要になってくると思われます。



地域通貨実践事業助成団体報告

ひょうごボランティアプラザでは、平成14年度「新たに地域通貨に取り組もうとする団体」または「すでに取り組みをすすめて、新たな展開を図ろうとするグループ」12団体に助成を行いました。県内各地で地域課題の解決や地域コミュニティの創造を目的に取り組まれた実践をご紹介します。

1 かこがわエコマネー実験研究会

通貨名称：りば 通貨形態：紙幣
実践地域：加古川市内および周辺

地元の兵庫大学と協力し、学園祭の中で地域通貨「りば」を使ったオークションを行い、たまった地域通貨を使える機会を増やした。地域青年経済人、ボランティア、趣味のサークル等様々な層が楽しい「研究会」を発足させ、新たなコミュニティ再生の芽生えができた。

2 新しいコミュニティを創造する会

通貨名称：未杜 通貨形態：カード
実践地域：氷上郡中心に県内全域

日本ではコミュニティ再生のための地域通貨が多いが、経済的自立のために、どのように地域通貨が使われているか関心があり、タイとイギリスから講師を招いて国際フォーラムを開催した。地域通貨により、支え合い、自立している地域があることを知り、地域通貨の可能性を実感した。

3 特定非営利活動法人ヤンヤンのおうち

通貨名称：yanyan 通貨形態：小切手
実践地域：主に神戸市北区筑紫が丘

ボランティア活動をしてもらったときに、感謝に対する量的な評価を表現するために小切手タイプの地域通貨を用いた。地域のボランティア団体に説明・発行してもらうことにより、地域における活動の輪、交流、理解が広がった。

4 姫路ITエコマネーアクション千姫プロジェクト

通貨名称：エコマネーIT支援システム（千姫ASP）
通貨形態：電子マネー

実践地域：兵庫県及び各地域通貨流通地域
千姫ASPという「IT会員管理」「IT家計簿」「運用管理」という3つの機能を汎用化し、インターネット上で全国のコミュニティへ提供。エコマネー&コミュニティビジネスネットワークとの連携事業として展開することにより、参加コミュニティの拡大など、より大きな成果を得る事ができた。

5 アトム知縁・助縁ネット

通貨名称：アトム 通貨形態：電子マネー
実践地域：アトム知縁・助縁ネット会員間

「アトム知縁・助縁ネット」は、障害者とその家族の包括的支援の一つで、関心を共有するコミュニティである。療育プログラム・教材交換等、感謝を示すためにエコマネーを使用している。リアルタイムで会員間の意思疎通が促進され、容易性や多様性が可能になった。

6 プラザ5

通貨名称：ミクラン 通貨形態：紙幣
実践地域：神戸市長田区御蔵菅原周辺地域

地域で子供を守り育てるとともに、子供たちが地域の中で役割を担えるようになるために、積極的に子供たちの地域通貨への参加を募った。子供たちがまちの行事など手伝うようになり、公園などで出会っても挨拶を交わすなど、今まで交流の薄かった大人との交流ができればはじめた。

7 安井まちづくり協議会

通貨名称：マンボウ 通貨形態：紙幣
実践地域：西宮市安井地区12自治会

震災復興後、この地域は、他から移ってきて、自治会に入らない人もいるなど、町の住民の絆が希薄になってきた。地域通貨の導入で、若者と高齢者の絆のつながりができ、つきあいの輪が広がった。自分の特技などを生かすことができたため積極的、前向きな心をもって生活を送れるようになった。

8 龍野地区まちづくり協議会

通貨名称：とんぼ 通貨形態：紙幣
実践地域：龍野市龍野町のうち川西地区

助け合いの気持ちを大切にし、これから進む高齢化のために、地域通貨を学びながら実践した。自治会やPTAの協力を得て説明会を開催し、地域通貨導入実験を行って、人々にその仕組みを知ってもらえた。説明会等を通して地域に数多くの温かい心を持つ人がいることを知り嬉しく思った。

9 六甲音楽祭実行委員会

通貨名称：アート 通貨形態：紙幣
実践地域：神戸市灘区

アート(Art)とは、芸術つまり楽器の演奏や、絵を描くことのみならず、肩をもんだりする技術のことでもあり陸もアートを持っている。イベントや、コンサート、展覧会で、地域通貨「アート」を流通させることにより地域社会の信頼感を高めることができ、また他地域からの震災への関心が高まった。

10 宍粟郡一宮町本谷自治会

通貨名称：美心(びしん) 通貨形態：紙幣タイプ
実践地域：宍粟郡一宮町 本谷地区

これまで何かをしてもらうと感謝とともに、お金やお酒でお礼をするのが慣例であったが、このお礼の代わりに地域通貨を利用するようになり、何でも気軽にお願いする気風が芽生えた。また、少子高齢化の自治会に元気な生まれ、「美心」を使った支えあい運動が広がりはじめた。

11 村岡町社会福祉協議会

通貨名称：むらおか 通貨形態：紙幣
実践地域：村岡町

高齢化の対策として助け合いシステムを形成するためにエコマネーを導入した。新たな地域づくりの活動者の発掘ができ、地域内での福祉ニーズの把握が可能になり、支えあいシステムの広がりが見られ、重層的サービスの提供が可能になった。エコマネーはまちの発展に伴って成長するので新たなまちづくりをするものである。

12 朝来町地域通貨研究会

通貨名称：ささゆり(予定) 通貨形態：紙幣(予定)
実践地域：朝来町(予定)

ボランティア入門教室の中で地域通貨体験教室を開き、試験的に町内の各ボランティアグループ会員間で流通させ、多くの住民が興味を示した。高齢者が、安心して暮らせる生き甲斐に満ちた地域づくりをめざし、地域福祉と商業の活性化をより有機的に結びつけることをめざしている。

ボランティアセクターを **支** える

～人と人がつながることから、豊かな活動が生まれる～

吉川町ボランティアセンター

このコーナーでは、ボランティアセクターの確立に向けて活動を展開している中間支援組織、地域活動支援拠点の取り組みを紹介します。

活発に人が出入りする ボランティアセンター

吉川町ボランティアセンターには、十二のボランティアグループ、四一六名が登録しています。くらしに密着した配食ボランティア・移送ボランティア等に加え、趣味や特技を活かした活動、イベントの際に活躍するグループなど、活動内容は多岐にわたっています。

ボランティアセンターは、健康福祉センター内にあり、隣接している特別養護老人ホームがボランティアの主な活動の場となっているため、ボランティアセンターは活動の拠点としていつもボランティアでにぎわっています。ボランティアセンター内には会議室、ロッカー、メールボックス、朗読ボランティアが活用できるAV室など、各グループがいつでも利用できる「ボランティアプラザ」があり、様々な設備が整っています。

「人と人とのつながり」を 重視した活動支援とは…

ボランティアコーディネーターの直本寛幸さんは、ボランティア活動のすそ野を広げていくために、ボランティア入門講座「はじめのいっば」を毎年継続開催しています。その中で初めてボランティア活動に関わる人に、「人と人が関係をつくる、仲間づくりをすることが大切」と声を大きくして、参加者によびかけられています。講座の中で、必

ず毎回、参加者同士がふれあい、交流することのできるレクレーションや福祉体験等のワークの導入を通じて、活動への不安を取り除き、笑顔で人と人がつながっていく「場」を大切にされています。

「人と人とのつながりを重視」という点では、ボランティアが活動の充実と交流を目的に自主的に組織している町ボランティア連絡会についても同様のことがうかがえます。吉川町ボランティア連絡会は平成九年五月にボランティア代表者会としてスタートしました。それまで同じ吉川町のボランティアでも他のグループがどのような活動をしているかわからない部分がありました。グループの代表者が集まり、相互の情報交換をすることで、町内で活躍するほかのボランティアを理解するところから始まりました。平成十二年一月には会則を整備し、吉川町ボランティア連絡会が発足。相互の情報交換に加え、ボランティア交流会の企画運営や、町内ボランティア全体で取り組む活動への協力など、連絡会の主体的な活動が多く生まれました。連絡会が発足以降は、互いの活動内容や進捗状況を理解しあつたことから、依頼が多く手が足りないグループを他グループが支援したり、手芸と布しばいグループが、ひとつの事業を協力して実施するなど、連携による幅広い活動が生まれています。

「知縁」と「地縁」をつなぐ

現在、ボランティアセンターでは、グループ単位の活動が多いボランティア活動を、小地域でも展開していくための支援を行っており、平成十四年十二月に行われたボランティア交流会では、地区福祉推進員や老人クラブのメンバー等も参加し、「知縁」型活動を行うボランティアと「地縁」型活動を行う推進員等が、活発に交流し、情報交換を行いました。

ボランティアとボランティア、グループとグループ、地区活動者とグループ…「人と人とのつながり」を紡ぐことを大切にした吉川町ボランティアセンターの実践は、ボランティア活動の広がりを生むとともに、違いを持つ者同士がつながり、協働するからこそできる、豊かな活動を生む取り組みといえるでしょう。

(A)



「ボランティアプラザ」各グループのロッカーには、それぞれのグループの写真と活動内容紹介が貼られている



プラザトピックス PLAZA TOPICS 地域づくり活動登録について

子育てや高齢者の支援、緑化活動、交流行事など、暮らしやすい地域をめざしたり、地域の課題に取り組むため、県民のみなさん同士が助け合ったり、自らさまざまな活動に取り組んだりする姿をいろいろな所で見ることができます。これらの活動を「地域づくり活動」と呼んでいます。

このような、みなさんの素晴らしい活動内容やその方法をより多くの人に知ってもらうことは、とても大きな意味があります。そこで、県民の参画と協働の推進に関する条例に基づき、ひょうごボランティアプラザで、みなさんの活動を登録してもらい、情報を分野別・地域別に検索できるようにインターネットを活用して情報発信し、より多くの方がみなさんの活動情報を知り、相互に連携・交流するためのきっかけづくりを応援します。

◆ 期待される効果

- ・自らが取り組んでいる地域づくり活動を広くPRできます。
- ・他の人たちが取り組んでいる地域づくり活動を知ることができます。
- ・新しい仲間づくりや、活動相互の連携・交流のきっかけになります。
- ・これらを通じて、地域づくり活動の一層の活性化につながります。

◆ 登録の対象となる活動

- ・自治会、婦人会、ボランティア団体、NPOなど地域づくり活動を行っている団体などが行う活動であること。
- ・営利を主たる目的とする活動、宗教的・政治的な活動でないこと。
- ・登録された活動や団体等が公序良俗に反する行為、犯罪行為、第三者の権利を侵害する行為でないこと。

◆ 登録の内容

活動分野、活動の内容、団体等の名称、所在地、連絡先、代表者名等

◆ 登録の方法

- ① 申込書
 - ・ひょうごボランティアプラザのホームページ
(<http://www.hyogo-vplaza.jp/>) に掲載しています。
 - ・各県民局県民生活課県民運動課に申込書を置いています。
- ② 申込方法
 - ・ひょうごボランティアプラザのホームページから申込み
 - ・ひょうごボランティアプラザに申込み（郵送又は持参）
 - ・各県民局県民生活課県民運動課に申込み（郵送又は持参）

◆ 問い合わせ先

ひょうごボランティアプラザ
事業部（担当：河端、河上）
TEL (078) 360-8845
E-Mail: info@hyogo-vplaza.jp

「ひょうごボランティアプラザ」の構想が持ち上がってから実現に至るまでの経緯を第2号からご紹介しています。プラザが当時の担当された方々に取材して構成したものです。今後、同様の拠点づくりに取り組もうとされている方々の参考になれば幸いです。

ひょうごボランティアプラザは、平成十四年六月にオープンしたところですが、開設の経緯③で紹介したように、ソフト先行事業として、平成九年度から「NPO大学事業」、平成十二年度から「ひょうごボランティアスクエア」、平成十三年度から「NPO専門相談事業」等がスタートしており、ボランティアオープンと同時に県からの委託事業等として継続実施しています。

また、ボランティアプラザと並んで長年の課題であったボランティア活動支援基金として、「ひょうごボランティア基金」がボランティアオープンと同時に創設されました。

この基金は、県民ボランティア活動の支援強化を図るとともに、阪神・淡路大震災復興基金を活用した「ボランティア活動助成」終了後のボランティア活動への支援も考慮し、ひょうご地域福祉財団を解散して、その財産に基づいて創設されました。

基金設立にあたっては、設置形態について様々な案が検討されましたが、特定公益増進法人であるため税制上の特典があり、寄附の受け入れ手続きが容易であること、ボラ

的かつ弾力的に各助成事業が実施できること等により、県社会福祉協議会内に創設されました。

基金規模は約一〇〇億円になっており、従来から実施しているボランティアグループ助成等に加えて、「行政・NPO協働事業助成」や「調査研究関連助成」を新たに実施しています。

現在、復興基金終了見込みの平成十七年度に向けて新たな事業展開を検討しています。

なお、前述した復興基金の「ボランティア活動助成」については、平成七年度から復興基金事業としてスタートし、県社会福祉協議会が各市区町社会福祉協議会の申請窓口のとりまとめを行っていました。ボランティアプラザの設立と同時に県社会福祉協議会事業として位置づけ、復興基金からの補助事業として実施しています。

また、平成十三年度から県社会福祉協議会において被災地NPO活動応援貸付制度をスタートさせており、平成十四年度からは、全県に拡大してボランティアプラザで実施しています。

(K)

プラザ開設の経緯 ⑦ ボランティアプラザ事業の展開

このページでは、NPO（非営利組織）活動者や支援者、NPOに関心がある方に向け、活動推進情報を発信していきます。

NPO 認証窓口



特定非営利活動促進法の改正（平成十五年五月施行）

Q 平成十五年五月から特定非営利活動促進法（NPO法）の改正が施行されましたが、これから申請する団体や既認証NPO法人は、どのような点に注意したらよいでしょうか？

A まず、このたびの特定非営利活動の二層の発展を図るためのNPO法改正の主な点は、①その活動の種類を追加（十一分野から十七分野への拡大）、②設立等の認証に係る申請手続の簡素化、③暴力団を排除するための措置の強化等ですが、この改正にともなう注意点は次のとおりです。

(1) これから申請する場合

従来の活動分野の理解にあたっては、従来の限り柔軟に解釈することが立法趣旨であり、兵庫県府の判断もその趣旨を尊重してまいりました。時代に即応した分野が追加明記されたため、いままでまちづくりや社会教育など他の分野の中で申請されていた事業が、よりはるかに積極的な活動が位置づけられ、設けがしやすくなりました。

また、申請書類が簡素化され、十六種類から十一種類に減ることとなる

りました。

(2) 既認証NPO法人の場合

すでに兵庫県認証のNPO法人については、法改正に伴う影響はほとんどありません。

ただし、定款に定めた事業を追加（縮小も含む）する場合は、設立時と同様に慎重に審査を行う必要があることから、団体の活動状況を判断する上で重要な書類である「一か年分の事業計画書及び収支予算書」について、定款変更認証申請の添付書類として追加されましたので、ご注意ください。また、事業報告や役員変更届等については、このたび改訂した設立・運営の手引書を参考にして提出してください。

なお、この手引書については、兵庫県のホームページに特定非営利活動法人の設立・運営の手引の改訂版（申請書類を含む）掲載しています。

また申請書類は、ひょうごボランティアセンター、県庁参画協議課、各県民局でも入手いただけます。

<http://www.hyogo-intecampus.ac.jp/gallery/volunteer/>

（兵庫県県民政策部参画協議課）

NPOキーワード

今月のキーワード 「コラボレーション」

コラボレーションの理念や推進策を知るうえで役に立つ入門書や事例報告が、最近、相次いで刊行されました。そのうち特に優れたものを近着図書の中から紹介します。（K）

●新川達郎監修「NPOと行政の協働の手引き」
大阪ボランティア協会刊（2003年）

158頁 1200円

自治体職員を主な対象として、NPOと行政の協働に関する基礎知識を体系的に紹介した好書。関西で活躍しているNPOの論客が分担執筆しているので、行政マンにとって分かりやすくとめられている。事例紹介や文献目録も有用。

●パートナーシップ・サポートセンター・岸田真代・高浦康有編
「NPOと企業・協働へのチャレンジ」同文館出版刊（2003年）

223頁 2000円

名古屋をベースに活動するNPO法人パートナーシップ・サポートセンターが行ったパートナーシップ大賞の詳細なドキュメント。11件の事例が詳しく紹介され、審査基準や審査経過も記されている。大賞30万円（1点）、入賞10万円（5点）という質素なイベントに全国から35件の応募があり、その熱意に答えて丁寧なコメントがつけられている。

●かながわボランティア活動推進資金21協働会議編
「協働の手引き～ボランティア団体等と行政のパートナーシップの構築に向けて」かながわ県民活動サポートセンター刊（2003年）

96頁 非売品

（HPからダウンロード可）www.kvsc.pref.kanagawa.jp/
行政とNPOの協働事業を積極的に推進している神奈川県現場からの報告書。進行中の1500件の協働事業から20件を選んで、その実態と今後の方向性を検討している。意思決定の遅れ、コミュニケーションの不足など多くの問題点の指摘や、受け皿としてのNPOの創設やネットワーク組織による協働など多様な仕組みが紹介され、経験の厚みがかがわかる。

●ハイディ・B・ハリス「シアトルまちづくりとマッチング・ファンド」
（特）神戸まちづくり研究所刊

非売品

（HPからダウンロード可）www.netkobe.gr.jp/machiken/
日本コミュニティエクスチェンジ・プログラムの一環として、昨秋神戸まちづくり研究所に滞在したハリスさんの講演記録。草の根型の事業を実施する際、マッチング・ファンドの仕組みを活すれば効果的で効率的な資金配分ができることをシアトル市の事例で報告した。なお、神戸における女性の活動記録（英文）も同研究所で入手できる。

広がれ! ボランティア



読書室にて 代表馬場さん、副代表土屋さん

①ローズアップ ボランティアグループ

このコーナーでは、県内のボランティアグループの特色ある取り組み・工夫等をご紹介します。

Vol.1 「イベント時、相手にあわせた多彩な情報発信！」 朗読ボランティア ともしび (三田市)

「ともしび」は、主に三田市で活動している朗読ボランティアグループです。メンバーは24名で、40名のリスナーに対し、市の広報や新聞等7種類の情報をテープに吹き込み、送付しています。毎月視覚障害者自身が開催する集い「あいあいサロン」の案内は視覚障害者自身からともしびに送られてくる原稿をテープに吹き込む等、視覚障害者にとって「ともしび」のテープは、広報や新聞の掲載情報だけでなく、日常の情報交換を支える情報伝達手段として、定着しています。

「ともしび」では、リスナーに寄り添った朗読を行うため、交流会を実施するなどリスナーとのコミュニケーションを大切にしています。毎月のテープのやりとりの際、テープに感想や意見を吹き込んで返してくれるリスナーもいます。「ともしび」では、交流会でのリスナーからの意見をメンバーで共有し、反省会を実施するとともに、毎月よりよい活動にむけた学習会を実施しています。

昨年度、「ともしび」は結成20周年を迎えました。20周年の記念事業実施にあたり、メンバー有志で実行委員会を立ち上げ、リスナーやボランティア、関係者に加え、はじめて朗読を聞く人にも朗読の魅力を楽しんでもらうため、メンバー全員で一斉に朗読する群読や、朗読劇など、生の声を活かしたプログラムを企画し、多くの人に参加・交流してもらえるよう、イベントの広報に工夫を凝らしました。リスナーには朗読テープ、公的な関係機関には招待状、ボランティアOBにはハガキで案内するとともに、カラーチラシを作成し、会合等様々な機会を捉えて手渡しました。また、活動で朗読している各種広報や新聞社にも声をかけて記事掲載を依頼し、大手新聞数社を含め、いくつもの媒体に大きく採りあげられています。結果は、ボランティア・リスナー数を大幅に上回る200名以上の出席者があり、会場は満員となりました。リスナーから「実際に生の声で聞くことができてよかった」との声や、初めて朗読の魅力に触れた一般の方から「うちでも朗読をやってほしい」と依頼が来るほど、20周年記念事業の反響は大きいものでした。

今後、「ともしび」では、活動の基本であるテープ録音による情報伝達活動を大切に守りつつ、活動の理解者を広げながら、リスナーの声を受け止めて活動内容の向上を目指していきたいとのことです。

連絡先:三田市ボランティア活動センター (079) 564-0410

ボランティア アラカルト

グループにとって 情報発信とは…

● 活動を必要としている人にとって…

活動を必要としている人のニーズに寄り添って行われるボランティア活動。しかし、活動を必要としない人が「活動を知らない人」がおられるかもしれません。活動を必要としている人に、グループの活動内容がよく届くよう、情報を発信することで、相手からも反応が返ってくることもあり、活動内容の向上につながっていきます。

● 活動に参加したい人にとって…

「ボランティア活動に参加したい人」の数は、「実際にボランティア活動を行っている人」の数倍におよび、適切な呼びかけが効果的です。また直接参加しなくても、寄付や便宜提供などさまざまな形態での参加を呼びかけましょう。

● グループ自身にとって

活動の忙しさに追われ、当初の目標から、活動の振り返りやメンバーの意志疎通ができない、といった経緯はありませんか? グループとしてチラシをつくる、あるいは情報紙をつくるということは、活動を振り返り、グループのメンバーが共通の認識を持つことにつながります。

「ボランティアアラカルト」では、様々なグループ・組織のための情報を発信していきます。

● 様々な発信の手段

- Eメール・電話 FAX
- 印刷物・パンフレット・チラシ
- 新聞紙の発行・プレスリリース
- 取材(広報・新聞等に記事掲載を依頼)
- 電子メディアの活用(ホームページ・メールマガジン等)
- 専用ウェブサイト
- 団体の情報や募集情報を発信できる情報システムを運用しています。

● 情報発信の場

- 役所等の窓口・回覧板・会合・会議
- ラジオ・インターネット
- アセンダー・掲示板・パンフレット
- ラック等・その他、関係機関に依頼を依頼

このコーナーへの「意見」を感想をお寄せ下さい!

編集後記

お待たせいたしました、9号(6月号)をお届けします! 今号から2ヶ月に1回の発行です。目数が少ない分、グループマネジメント情報など、皆様に活用いただける内容にしていきたいです。これまで「インフォメーション」で紹介していた募集・助成金情報は、ホームページやメールマガジンを通じて随時発信していきますので、こちらもよろしくお祈りします! (N)(A)
URL <http://www.hyogo-vplaza.jp>